

(「一寸先は光です」)

校長だより

平成29年9月13日(水)

第14号

「我が子を入れたくなる学校をつくりたい」(初代校長)

那覇西高等学校長 長濱 雅仁

第11回文化祭まであと17日 ”オレたちのMemories”～ 刻め青春の1ページ～

◆大会・コンクール等予定・結果

- ・いざ高校野球16日(土)。対名護高校戦於北谷球場。目指せ甲子園! 「チーム那覇西」で応援に行こう!
- ・9月3日(日)奥武山プールで新人水泳大会が行われ、男子が総合優勝を果たしました。
- ・陸上部:9/9～10 於県総合。秋季陸上選手権大会がありました。惜しくも男女とも総合2位でした。

○校内外の小さな変化・成果がありました!気がついたでしょうか?

- ・早朝、グラウンドでゴミ拾いをしていると「これゴミです」と手渡してくれたサッカ部員さん、ありがとう!
- ・7時40分に早登校し、各教室、図書館で自主学習している3年生が30名から40名います。さすが3年生、最上級生です。「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」といます。後輩達へのすばらしい置き土産を3年生に期待している今日この頃です。ちなみに12日(火)はこれまで最高の49名の3年生が登校し、それぞれの「夢実現」に向けて学習していました。さすが那覇西、ヨ!
- ・2学期放課後講座・早朝講座がスタートします!中でも「極める学習法」は黒島教頭先生が「率先垂範」ボウタイで開講する講座です。放課後ですので是非とも受講してほしいものです。(ハナさんが爺さんより)
- ・体育科1年野外実習:八重山地方、台風接近により国頭村に変更になりました。12日元気に出発!

9月 校長講話から

9月4日(月)

本県のウンケー、ウークイと戦国時代の武辺話から垣間見えるもの

沖縄の旧盆で昨日はウンケー、今日はナカビ、明日は、ウークイにあたります。沖縄では、オウケ、オウケ(祖先)の霊をお迎えする大切な儀式です。ところが、最近では、せっかく家族、親族が集っても子供や若者がスマホゲームに興じて身内の話に積極的に耳を傾けない傾向があるそうです。(皆さんは、どう思いますか?耳を傾けると、スマホゲームの話の中には興味深い話が聞けるかも…)

戦国時代、「武辺話」として、北条早雲、徳川家康、伊達政宗といった武将は、武将としての心構え、「家訓」、体験から得た教訓などを子孫に伝えていたそうです。(小和田哲男:静岡大学教授)

本校2代目教頭大城公男氏は、鳩間島出身でした。(石碑「一滴大河」の考案者でもあります)鳩間島は、昔から経済的にかなり、厳しい島であつたらしく、子供達は、幼少の頃より、「大きくなったら郵便局員か教員になりなさい」と教えられたそうです。氏はやがて校長として退職なさるのですが、次第に「教職は自分にとって本当に天職だったのか」と疑問を持つようになり、退職して数年の後、「東北大学大学院」に入学、見事博士(修士)課程を修了したそうです。また、本校の教諭であつた金城孝忠先生は、後に辺土名高校の創立100周年記念事業に校長として関わりますが、終戦直後(70数年前)に残された資料の中に、数学の授業で使用された段ボールがあり、炭で書かれた当時の授業内容は今よりも格段に高いレベルであつたと話されておりました。教師も生徒も教科書はおろか、教材も何もない状況下で、何としても人材を育成しようとする教師の強い意欲・信念を感じずにはいられなかったそうです。(このような、いわゆる「武辺話」・「今昔物語」は先輩方と泊を共にし、遅くまで語り明かした中で、聞いた話なのです。)せっかく、年に一度、家族・親戚が集結し、ウケで先祖をお迎えし、近況を報告し、また、ウケで先祖をお送りする旧盆です。それぞれの通っている学校、生活してきた家庭・地域の「武辺話?」に是非とも興味・関心を持ち、先人の偉大さに気づくとともに、仏前にウケ(合掌)してほしいものです。